

災害教訓を踏まえた国土地理院の取組

平成30年の西日本豪雨災害では過去の教訓が生かされず、広島県小屋浦では避難勧告が出されて2時間後までの避難率はわずか1.9%であった。

◆ 西日本豪雨災害からの教訓を受け、国土地理院では過去の自然災害に関する石碑やモニュメント等を「自然災害伝承碑」として地形図やWeb地図に掲載している。

◆ 「自然災害伝承碑」は当時の被災状況を伝えると同時に、被災場所に建てられていることが多く、それらを地図を通じて伝えることは、地域住民による防災意識の向上に役立つものと期待される。



写真提供：大阪府警察

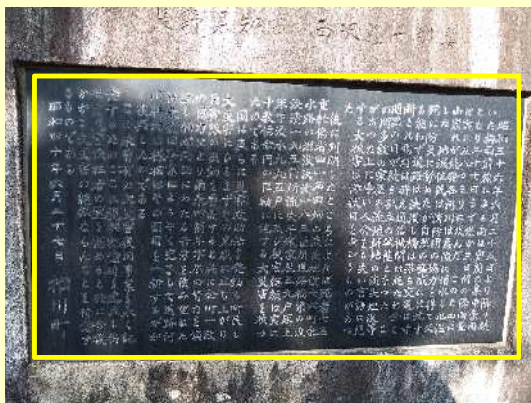
「自然災害伝承碑」とは？

過去に発生した津波、洪水、火山災害、土砂災害等の自然災害に係る事柄（災害の様相や被害の状況など）が記載されている石碑やモニュメント。

「自然災害伝承碑」の例



復興記念（長野県松川町）



碑文（抜粋）

概要	
碑名	復興記念
災害名	昭和36年 梅雨前線豪雨 (二六災害) (1961年6月)
災害種別	洪水・土砂災害
建立年	1965
所在地	長野県下伊那郡松川町元 六箇（松川町役場）
伝承内容	昭和36年(1961)6月25日 より降り続いた梅雨前線 による集中豪雨により山 崩れが続発。各河川は急 激に増水し氾濫した。松 川町の被害は死者7名、重 軽症者41名、田畑の高生 地没約76ha、流失半壊家 屋59戸、床上床下浸水 995戸などに及んだ。
ID	20402-001

昭和36年(1961)6月25日より降り続いた梅雨前線による集中豪雨により山崩れが続発、各河川は急激に増水し氾濫した。松川町の被害は死者7名、重軽症者41名、田畑の流失埋没約76ha、流失半壊家屋59戸、床上床下浸水995戸などに及んだ。

碑文を150字程度に要約して伝承内容として公開

「昭和三十六年六月二十五日より降り続いた梅雨前線により雨は空前の集中豪雨となり二十七日まで僅か三日間の降雨量は実に五八〇ミリに及んだ。このために山崩れが続発各河川は急激に増水し氾濫した。地域住民は消防団の協力を得て必死に防災に努めたが自然の猛威には抗する能わず道路は決壊し橋は落ち交通は寸断され電灯は消え通信機関は絶たれ全く暗黒の日が続き孤立の状態となった。」

後に判明したところによれば死者七名重軽傷者四一名田畑の流失埋没七六町余水路の埋没決壊一八三箇所道路橋梁の流決壊一九五箇所流失半壊家屋五九戸床上床下浸水九九五戸に及び被害総額は実に十数億余円の巨額に達す大災害を被ったのである。」

「三六災害」とは

昭和36年6月23日、梅雨前線の停滞に伴い雨が降りだすとともに、台風6号が接近し、26日から集中的な豪雨へ変貌。翌27日、わずか1日にして6月の月間平均雨量を超えるほどの雨量を記録。伊那谷の各所で土石流、がけ崩れ、堤防決壊など、日本の災害史上に残る大惨事となった。

(三六災害60年HPより)

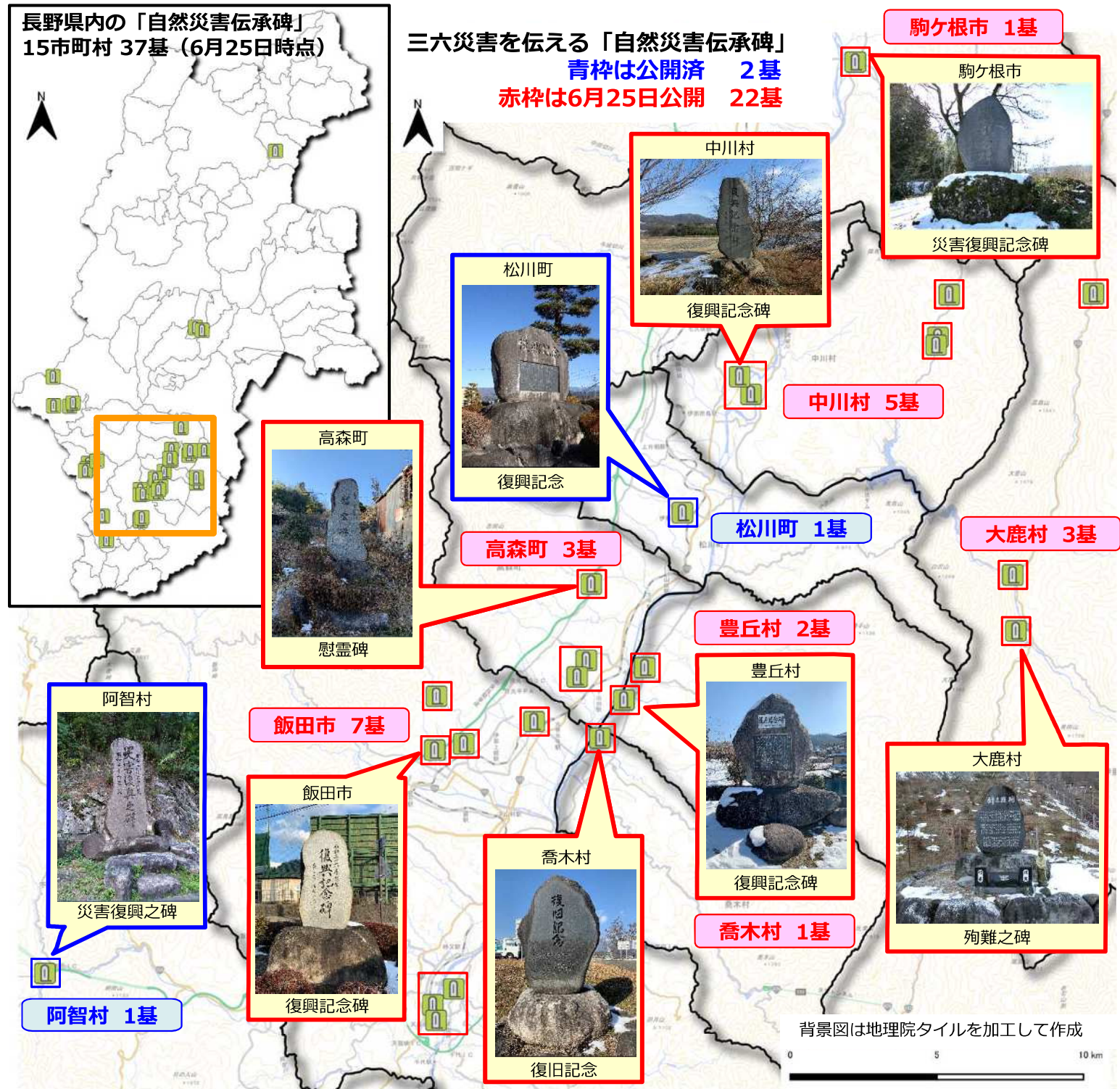
<https://www.cbr.mlit.go.jp/tenjo/36saigai60/index.html>



長野県松川町生田

三六災害を伝える「自然災害伝承碑」の公開

- 三六災害60年実行委員会・関係市町村と連携して取組を進め、**令和3年6月25日に新たに7市町村22基の三六災害を伝える「自然災害伝承碑」をウェブ地図「地理院地図」に追加して公開しました。**



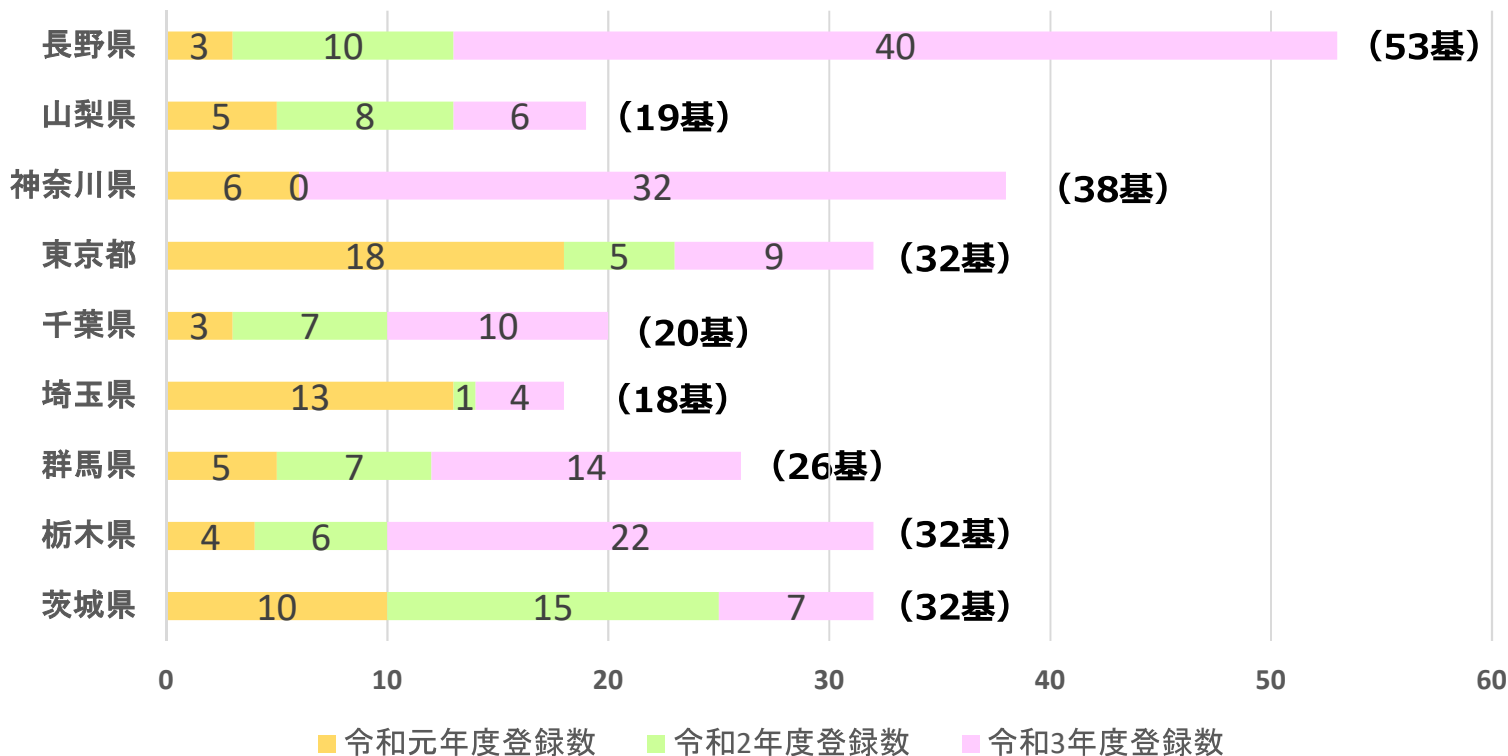
今後も国土地理院関東地方測量部では「自然災害伝承碑」について、関係市区町村等と協力して取組を進めて参ります。

都県別の登録数

関東地方測量部管内登録数：**87**市区町村 **270**基

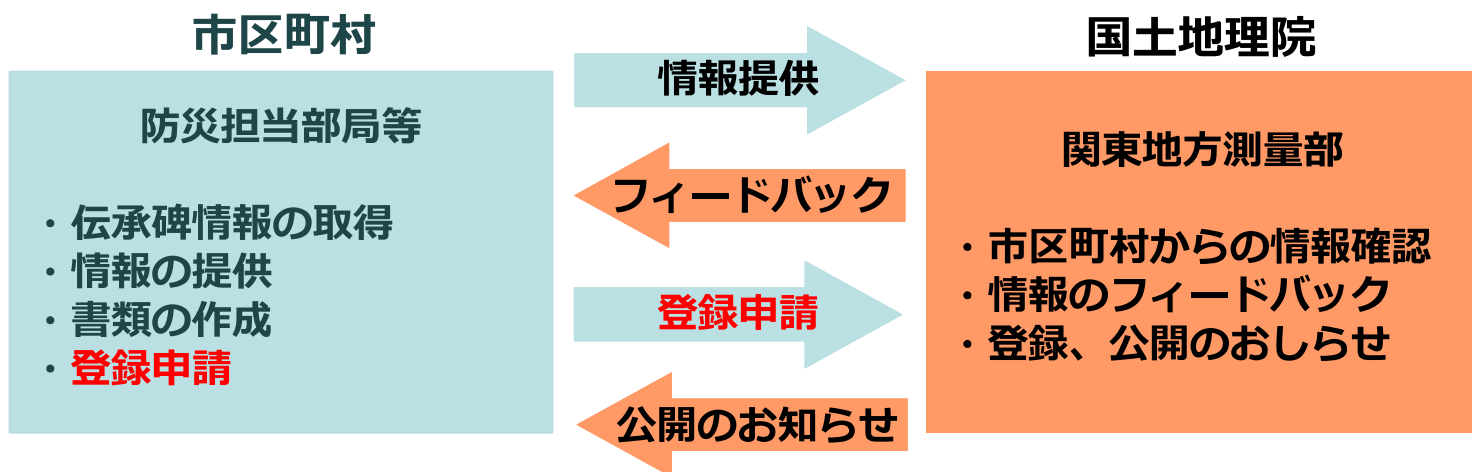
【参考】全国の登録数：**367**市区町村**1,224**基 ※令和4年1月14日時点

県別登録数(自然災害伝承碑:関東地測管内)



自然災害伝承碑の登録イメージ

「自然災害伝承碑」の情報は市区町村の皆様と連携して収集しており、市区町村管内にある自然災害伝承碑の登録に、ご協力をいただいております。



自然災害伝承碑の詳しい登録方法は、以下のウェブサイトで紹介しています。

「自然災害伝承碑」の取組 <http://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi.html>

<問合せ先>

国土交通省国土地理院関東地方測量部 防災課 (担当: 住谷、阪上)

Tel : 03-5213-2054 e-mail : gsi-denshou+kan10@gxb.mlit.go.jp

